

このまち(飛騨地域)で安心して暮らせるヒント

日常のくらしと

医療がとけあう

地域ケア

～ 講演会とシンポジウム～

人口減少と人材不足の今現在、病気、認知症、介護、看取りなど、家族や自分にとって心配はつきません。そんな時、誰かに相談してみる、頼ってみる、そして情報に耳を傾け心の持ち方を学んでみる事が大切に思います。

今回のような貴重なまたとない機会に“生き方やいのち”について理解を深め、家族で話し合うきっかけとしていただけましたら幸いです。

身体や心のつらさを和らげる「緩和ケア」の理念が人々や地域に広がっていきますように…

令和6年(2024年)

7月14日(日)

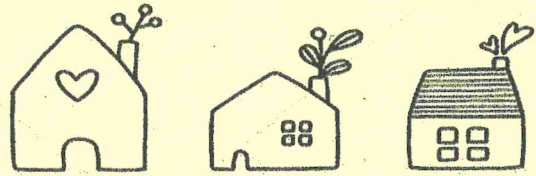
高山市民文化会館小ホール

13:30 (開場 13:00) ~ 16:30

チケット 1,000円を事前にお求め願います

※取り扱い:高山市民文化会館/あんきや

主催 市民活動団体あんきや
共催 社会復帰研究会
協力 慈愛会ひだ (株)高山市民時報社 (有)プレス
後援 高山市 高山市社会福祉協議会
連絡先 090-2576-1099
市民活動団体あんきや代表 蒲池和子



= 講師 Dr のご紹介とコメント =

専門分野、所属、モットーや影響を受けた言葉など

高木 宏明さん <病院/地域ケア> 1960年生
総合診療・在宅診療/JA 長野厚生連富士見高原医療福祉センター *長野県諏訪郡富士見町
◆医療人である前に地域人である。患者さんは患者さんではなく地域に生きる生活者である。医療は生活と人生に必須ではあるがすべてではない。

今井 奨さん <病院での緩和ケア> 1977年生
緩和医療/高山赤十字病院 *高山市
◆患者さんが治らない病気を抱えられた時に「仕方ない」を転じて受け入れていただき、寄り添うケアを全力で、をモットーに医療をしています。

駒屋 憲一さん <在宅ケア> 1980年生
在宅診療・外科/ひだ在宅クリニック院長/飛騨医療センター久美愛厚生病院非常勤医 *飛騨市
◆国府町出身。飛騨地区に在宅医療の必要性を痛感し、専門クリニックを2年前に開業。座右の銘は「一隅を照らす」

垣内 無一さん <心のケア> 1976年生
精神科全般・心療内科・神経内科/Mこころクリニック院長 *高山市
◆しあわせは目標ではなく、結果にすぎない。

益田 大輔さん <心のケア/まちづくり> 1974年生
精神医療・哲学・社会学・演劇/須田病院精神科医/産業医/高山市議会議員/飛騨高山倫理法人会会長 *高山市
◆正しい理解より好意的な誤解。自立とは依存先を増やすこと。人類は他人の経験を利用する特殊な能力をもつ生命体である。

◎講師・シンポジウム司会進行